



蒲生の魅力を昇華して 次世代が誇れる故郷を作る

(NPO法人Lab蒲生郷 副理事長:丸野博和さん)

活動のきっかけ・想い

蒲生の輝きに磨きをかけ、未来へ繋げていく

鹿児島には魅力的な市町村が数多くありますが、その中で異彩を放つ存在ともいえるのが旧蒲生町です。2016年には地域再生大賞優秀賞、そして過疎地域自立活性化優良事例表彰総務大臣賞を受賞。転機はいわゆる平成の大合併です。まちづくりを牽引してきたNPO法人Lab蒲生郷の副理事長・丸野博和氏に話を聞きました。「蒲生町には1200年前からの長い歴史があります。麓(郷土居住地域)ができたのも1700年代ですね。私たちが普通に生活している場所が何百年単位の歴史のある町だからでしょうか。蒲生で暮らす人たちはものすごく協調性も地域愛もあって、だからこそ子育てもしやすい。そんな中で市町村合併の波が蒲生にも訪れて。このまま合併したら、蒲生がただの周辺部になって、人も少なくなり、廃墟化する可能性があると思いました。せっかく暮らしやすいこの場所が、輝きを失うんじゃないかって。このままではいけないと5~6人のメンバーが集まったのが事の発端です。それが2007年ですね。蒲生の先人たちの想いを受け継ぎ、今ある良さを活かしつつ子供が喜ぶ新しい価値を創造し、将来、この町で育ったことを誇りに思ってくれるような故郷が作れたらと考えました。」

大ヒットした事業「カモコレ」

試行錯誤して辿り着いた蒲生ブランド

着地型観光事業「カモコレ」は2009年からスタートしました。「カモコレ」とは蒲生郷を再発見し、楽しんでもらうためのイベントパッケージのことです。これが本当に多くの方に認知していただいている事業だと思います。当時、鹿児島県は九州新幹線全線開通の観光戦略の一つとして、鹿児島着地型観光ミニモデル事業を募集していました。その事業へ応募し、採用されたことがきっかけです。着地型観光というのは、大手旅行会社がやっているようなツアーではなくて、自分で色々な場所に行って(着地して)、体験して、帰ってくるというものです。それまで蒲生で行われていたイベントは、1回1回の集客にエネルギーをすごく費やしていたのですが、別府温泉の温泉博覧会や都城の盆地博覧会のように、「カモコレ」のガイドブックを作ることで蒲生の取り組みを観光客に一斉に届けられると考えました。これがめちゃくちゃヒットしましたね。カモコレをやり始めて、「蒲生って面白い街だね」と住みついた人もたくさんいます。カモコレはその後も回を重ね、2020年で一旦終了しましたが、今は「学びのカモコレ」や「かも超短期大学」など形を変えて実施しています。

「測ってみよう大楠のCO2」は面白かった取り組みの1つですね。当時、洞爺湖サミットで地球温暖化についての会議が行われ、ニュースでは二酸化炭素の削減について報じていましたが、どうも分かりにくい。子供たちに分かりやすく伝えるのはどうすればいいのか考えました。植物は二酸化炭素を吸収する、蒲生には日本最大の大楠がある。ということは、これまで蒲生の大楠が吸った二酸化炭素は日本最大だろうという発想のもと、どれくらい吸収したか調べてみることにになりました。幸いにも蒲生には森林の専門家がいる県の機関があったので、色々教えてもらいながら、蒲生小学校の飼育栽培委員会の子供たちが1年を通して取り組むことになりました。幹の体積を計算すると、大楠には13,710.375kgの二酸化炭素が溜められていることが分かりました。しかし、この数字がどうも見当がつかない。可視化してみようと考えた末、気球に辿り着きました。そしていくつかの伝手を辿りながら、蒲生小学校で気球を飛ばすことが決まりました。その気球が本当に大きくて、校舎の倍以上ある気球、これの29個分なんだよと子供たちに可視化して伝えることができました。そして、飼育栽培委員会の子供たちが気球に乗ったんです。そうして蒲生では、大楠がこれまで吸収した二酸化炭素を削減しようという運動が起きました。子供たちにとっていい経験になったと思います。当時の子供たちが今は21歳くらいになっています。子供のときの経験を、きっと未来に繋げてくれると思います。

他にもカモコレなどを通して繋がった仲間と子供の発達障害の勉強を進めていく中で、鹿児島県のNPO共生・協働・かごしま推進事業の話が進み、療育事業所の設立に至りました。未就学児時代の親子のふれあいがとても重要ということで、親向けの遊ばせ方講座を40回、県内各地で行いました。あとは療育事業者の方や発達支援センターの職員向けの勉強会をコーディネートも行いました。



今後の展望

蒲生の魅力を内外へ発信し続ける

蒲生麓は2019年に日本遺産に選ばれました。今後は行政と共に、蒲生の歴史を多くの人たちに伝えることが次のミッションだと考えています。それと共に、地域の小・中学生にももっと蒲生の魅力を伝えなければならぬと思っています。そのために、まずは先生たちに地域のことを学んでもらう研修を企画しています。異動や転勤で蒲生に移り住んだ方々にも、最初に蒲生のことをしっかり知ってもらったり、誰がどういう情報を知っているのかを教える取り組みもできたらいいですね。

NPO法人 Lab蒲生郷 団体概要

理事長：藤谷亜太可

設立年：2007年

会員数：12名



連絡先：0995-52-0115

mail：lab_kamougou@etude.ocn.ne.jp

ホームページ：

<http://kamo-go.net/>

